

～下田のデキゴト～



## 1/26 受賞おめでとうございます。

下田市民生委員児童委員である臼井ふく子さんが、平成13年に民生委員就任以来、20年以上にわたり、地域の福祉向上のために尽くされてきた功績を認められ、全国民生委員児童委員長功労者表彰を受賞されました。



## 2/ 初旬 鬼は外、福は内！

市内各地で節分行事が行われました。写真の下田達磨大使にはゲストとして元ラグビー日本代表の廣瀬俊明さんを迎え多くの参拝者が台上から撒かれるお菓子や福豆に手を伸ばし福を持ち帰りました。



## 2/ 7 北方領土マラソン

第43回「北方領土の日」記念史跡めぐりマラソン大会が3年ぶりに開催され、一般、中学男女の計179名が下田のまちを駆け抜けました。競技後は、根室市から寄贈していただいた鮭で作った石狩鍋が振る舞われました。



## 2/11 厄払い、五穀豊穡を祈願して

市指定無形民俗文化財「鬼射」が落合の高根神社境内で行われました。儀式を経て射手である役者が、裏側に「鬼」と書かれた的に12本の矢を射り6本が命中し厄払い、五穀豊穡を祈願しました。



## 2/13 トークフォーカス

下田高校1年生179人と社会人90人が次々と相手を変えながら「このまちに住み続ける理由」「夢について」「初恋相手はどんな人」など生徒が事前に考えた幅広いテーマで対話し交流を深めました。



## 2/15 下田の魅力を発信しよう！

朝日小学校6年生14人が、吉佐美大浜のビーチクリーンを行いました。下田の魅力である海を守るためにできることを考え、この思いを地域の方々にも伝えたいと意欲的に活動していました。

2月の できごと	4日	12日	14日	15日
	これば！遊具で遊ぼう	旧稲樟中学校譲渡会	災害対策本部運営図上訓練	鳥獣被害対策講習会

17日	車いすバスケットボール女子日本代表 北間選手表敬訪問
19日	旧下田東中学校譲渡会
22日	にっぽん丸 寄港

# 地域子育て支援センター通信

問合せ先 地域子育て支援センター ☎02200



## 4月の予定

- 3日(月) 閉館(新年度準備)
  - 4日(火) 開放開始
  - 7日(金) ふれあい遊び
  - 14日(金) 敷根公園で遊ぼう 9時30分～11時
  - 17日(月) 体育館で遊ぼう 9時30分～11時  
場所：市民スポーツセンター(サンワーク)
  - 21日(金) ふれあい遊び ※午後閉館(清掃・消毒)
  - 24日(月) 発育測定・育児相談 9時～11時  
保健師、栄養士来所
  - 26日(水) 誕生会 10時30分～
  - 27日(木) こいのぼり製作
  - 28日(金) こいのぼり製作
- ※予定は変更になる場合があります。  
詳細は子育て支援センターまでお問い合わせください。



春の訪れを感じ、暖かくて柔らかな日差しが差し込むようになりました。春は、新しい季節のスタートです。こども園や保育園への入園を心待ちにしているお子さんもお過ごしください。また、すくすく大きくなっているお子さんの成長を改めて感じさせてくれる季節でもあります。今月は、「おおきくなったねの会」で一年間を振り返り、みんなで成長を喜びあいましょ。



鬼のお面製作



誕生日会



交通安全教室



ヨガ&リトミック

## こんにちは、市長です

「天城越えと伊豆縦貫道(後編)」

天城越えの意義の二つ目は、その旅のゴールです。天城を越えるときは、河津の湯ヶ野に投宿して旅の疲れを癒すのですが、しかしそこはゴールでなく、目的地は下田なのです。踊り子たち旅一座も「私」も、それを端的に示す踊子の台詞があります。「ああ、お月さま。明日は下田、嬉しいな。(中略)活動へ連れて行って下さいませね」。

当時の下田は、多くの旅人が惹き寄せられる魅力的な場所であり、大げさに言えばテーマパークのような存在だったのかもしれない。旅人を優しく受け入れる土地柄について「下田の港は(中略)旅の空での故郷として懐かしがるような空気の漂った町なのである」と書かれています。つまり人々が天城を越えるのは、そのゴールに下田というパラダイスがあるからだということでしょう。

そして、三つ目が(これが)それが核心と思うのですが、下田からは船で東京に行けること。つまり、非日常から日常へと戻ることができるということ。一高生の「私」は多くの悩みを抱えて天城を越えますが、旅の中で癒され、ついに再生して、日常の暮らしに戻っていきました。日々の様々な苦しみや生きる悲しみを抱えた人々が天城峠を越えるのは、単なる現実逃避ではなく、自己の浄化や甦生といったとても大切な意義があるのだと思います。

下田街道の起点は三島大社の正面です。その街道の未来、形である伊豆縦貫道の整備が進むと益々多くの人がやってくる。伊豆縦貫道は私たち賀茂の住民の利便性向上だけでなく、都市部の人々にとっても心を癒すための重要なインフラと言えるでしょう。

下田で暮らす私たちは、これからも観光をはじめ様々な形で人々の再生を支えることができ、さらにはそうすることで私たちが自身も幸福になれるのではないのでしょうか。

※活動：活動写真、映画のこと。

